

『PCA個別原価会計DX』

バージョン1.0、リビジョン5.01

プログラムでの主な機能強化・仕様変更点

HOS210924

※『PCA Client-API』や他のカスタマイズ(アドオン)プログラムをご利用のお客様は、アップデート後のカスタマイズプログラムの動作への影響について、事前にご確認ください。

動作に問題ないことを確認後、アップデートを実行してください。

■互換性に関する変更点の有無について

◇データ領域の更新について

変更あり

◇APIの変更について

変更あり

◇汎用データの変更について

変更あり

■主な機能強化・仕様変更点

操作等の詳細については、オンラインヘルプ、またはPDFマニュアルをご覧ください。

※ご利用のシステムにより、一部ご利用になれない機能があります。

◇収益認識会計基準に対応

会社基本情報に収益認識会計基準を適用するかの設定を追加しました。

プロジェクトの科目設定に契約資産科目の指定を追加しました。(適用する場合)

完成振替にて契約資産を考慮した振替を行うように変更しました。(適用する場合)

プロジェクトの汎用データに契約資産科目の設定状況を追加しました。

◇会社法施行規則等の改正に対応

新規データ領域作成時の初期科目に「154 契約資産」「330 契約負債」を追加しました。

勘定科目属性に「株式引受権」(勘定科目属性グループ)を追加しました。

決算書注記表の初期項目に「収益認識に関する注記」「会計上の見積りに関する注記」を追加しました。

合計残高試算表の貸借対照表(純資産)に「株式引受権」の集計科目を追加しました。

決算書の貸借対照表(純資産)と株主資本等変動計算書に「株式引受権」の集計科目を追加しました。

決算書の条件指示に「株式引受権を純額で出力する」を追加しました。

FR形式XBRL出力(XBRLツール)で「株式引受権」に対応しました。

◇プログラム修正

下記についてプログラム修正しました。

・人件費集計表で全社員を集計対象にして出力した場合、別のプロジェクトに携わっているが対象のプロジェクトには携わっていない社員まで出力される。

・プロジェクト仕訳一括読替(担当部門・得意先)を実行した際に、特定の条件で得意先を指定した仕訳の残高に不整合が生じる。

◇その他

「プロジェクト仕訳一括読替(担当部門・得意先)」を実行した際に、特定の条件で得意先を指定した仕訳の残高に不整合が生じ、試算表出力時に貸借不一致のメッセージが表示される場合があります。
これに伴い、「データ領域の更新」時に再計算するように対応しました。

以上